

令和4年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価 (中間評価)		学校関係者評価 (3月14日実施)	総合評価 (3月24日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	生徒の学力向上のため、個々の学習ニーズに対応した「確かな学力」定着を図る環境づくりを推進し、知識の習得と思考力の育成のバランスに留意した学習指導の開発や授業改善に取り組む。	○新学習指導要領に基づいた生徒の資質・能力の育成に向けて、ICTを活用し「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげる。 ○生徒による授業評価の項目に、8「私は、授業の課題・予習・復習などを家庭学習で取り組むことができた」を加え、評価ポイント3.3以上を目指す。	①授業見学週間や研究授業のテーマを明確にするとともに、「教科ごとの取り組みがつながる工夫」や「生徒による授業評価をふまえた改善」に取り組む。 ②家庭学習と授業の連動による効果的な学習を、各教科で具体的に実践するよう働きかけを行う。	①生徒による授業評価から授業研究活動の成果が読み取れたか。 ②生徒による授業評価の項目8の評価ポイントが3.3以上であること、また自由記述欄で家庭学習に取り組む姿勢が読みとれたか。	①授業見学週間を設け、教科に関係なく授業を相互見学し、その結果を見学シートにまとめて全職員に配付することで、個別最適な学びの実現を目指したICTの活用方法やグループワークを通じた協働的な学びの実践例を全職員で共有することができ、組織的な授業改善につなげることができた。 ②生徒による授業評価の項目8の評価ポイントは、全体平均3.1であり、今回目標には届かなかったが、自由記述欄から家庭学習について課題意識や必要感をもって取り組む態度を読み取ることができた。	①テーマを明確にした研究授業の実践や、新学習指導要領に基づくICTの効果的な活用について、今後も継続して取り組んでいきたい。 また、教科内での情報共有や、校内研究授業への積極的参加を促し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善をさらに進めたい。 ②各教科で、家庭学習と授業が結びつくような取り組みを引き続き検討するとともに、改善策を学校全体で共有する機会を設ける。	①丁寧な校内授業研究・生徒による授業評価について高く評価する。今後の展開については、教師の教える授業形式(プレゼン、自学課題、協働的な授業様式など)と、学習が行われる社会様式(集団での対面、個人、ペアワーク、グループワークなど)の組み合わせがどのように展開されているのかについて着目するとさらに収穫があるように思う。 ②目標値に届かなかったことは残念ではあるが、今後の見通しや意欲があると感じた。また、今後の方向性として、どのようなところを家庭学習で行い、それが授業でどのように機能しているかを明確にする必要がある。	①授業見学週間を機に、指導方法の見直しや、指導技術の一層の向上に、教員間で意欲的に取り組むことができた。今後は、より効果的な研修体制を構築し、授業者と見学者がお互い共通の課題意識をもって授業研究に臨むことが必要である。 ②生徒による授業評価の項目8のポイントは、全体平均3.2であり、目標には届かなかったが、ポイントの上昇が見られ、各教科の指導に一定の効果が見られた。今後は、家庭学習の質的改善として、授業で学んだ事柄を家庭学習で活用できるような課題のあり方を検討するとともに、生徒の学びを促し支える指導が必要である。	①今年度の研究授業の反省点を踏まえ、授業改善に向けた本校の今後の課題を明確化する。また、評価場面や評価方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、教員の指導の改善につながるものにしていくために、教員研修会や、研究授業の取り組みを強化する。 ②家庭学習と授業を連動させる取組を行い、主体的な学習を促し、学習習慣を培いつつ、基礎学力の充実を図る。また、新設した自習室の活用を促す。
2	生徒指導・ 支援	学習活動以外のさまざまな場面をとらえ、生徒の自己・他者理解力を深化させるとともに、自主的に取り組む態度を身に付けるよう支援する。	○瀬谷高祭など学校行事の生徒主体による運営を実現させる。 ○取り組む生徒を維持することから部活動の活性化を目指す。 ○規則正しい生活習慣の確立と規範意識を高めることと、様々な成果を収めることとの関連性を理解させる。 ○安心して学校生活を送れる環境づくりを目指し、教育相談体制の確立を図る。	①生徒による行事運営組織に対し、集団活動での個人の役割や課題、目標などを常に問う。 ②部活動加入率を定期的に把握しながら、部長会などを通じて部員定着の働きかけを行う。 ③強制的な指導ではなく、理解を促し、自主的にルールを守る姿勢を支援する。 ④生徒情報の共有とケース会議を定期的に開催し、登校が困難な生徒を支援する。 ⑤交通社会の一員としての事前教育を強化する。	①行事後の調査で、自主的に取り組めた生徒が70%を超えたか。 ②年度末の調査で、部活動加入率70%台を維持できたか。 ③定期的な生徒への働きかけにより、継続中の頭髮指導対象者以外の、新たな指導対象者が0人であったか。 ④長期欠席者が前年より減少したか。 ⑤地域からの苦情件数を減らし、今後その減少を目指していく。	①文化祭後の生徒アンケートにおいて、自身の主体的な取り組みや能力の成長を実感する旨の回答が、「リーダーシップ」以外の全項目で80~90%台となった。 ③新たな頭髮指導対象者が5名であった。 ④生徒情報の共有が図られ、学年団として支援にあたれている。 ⑤地域からの苦情や情報提供をいただき、指導にあたっている。	①文化祭では概ね目標達成と判断する。引き続き、合唱祭の成果と併せて検証を行う。 ②部活動については今後データ収集から目標に向けた取り組みを行う。 ③行事や長期休業を経て指導対象者が増えないよう、身だしなみを整える意義の理解を深める。 ④生徒情報の共有が効率的に行われるよう、情報シートの作成に取り組んでいる。 ⑤事前教育を強化するための計画立案に取り組む。	①コロナ禍において、瀬谷高祭を実施し、全校一丸となって不自由ながらも工夫を凝らし、成功させたのは素晴らしい。また、他校が中止している修学旅行も実施したことも高く評価している。 ②③④⑤生徒指導・生徒支援に必要な不可欠な情報共有の充実を図っていることを高く評価する。今後の展開としては、場合によっては、生徒自身の声を踏まえた情報であるかどうか、を吟味する必要があると思います。 ⑤自治会の会合に学校も参加し、学校として指導ができることを説明していただけたら、自治会でも支援できる部分があると思う。	①文化祭での「主体性の発揮」などについて、生徒・教員間で若干の認識の差がアンケート結果から伺えた。 ②部活動について、新入生OTを実施したり、部活動講演会を行ったりしたが、効果の検証は行わなかった。 ③頭髮指導では新たに指導が必要な生徒が2名ほどいたが、指導により適切に修正ができた。 ④長期欠席者数は集計中であるが、進級や卒業に向け適切な支援に取り組めた。情報シートの活用により、学校全体で生徒情報を共有し、ケース会議にタイミングよくつなげることができた。 ⑤地域からの苦情や情報提供は担当が把握し対応した件が14件であった。それを受け、指導に温度差が生じないよう配慮した注意喚起ができた。	①生徒側の「とても」と教員側の「だいたい」という評価の差に対しては、目標の共有を促すことで両者の理解の一致と達成感の向上を図る。 ②企画ごとの参加者アンケートや、部活動加入率の推移把握などで、まず検証材料を揃える。 ③頭髮指導では、人権を尊重したうえで地毛を把握する方法を構築していく。また、生徒会が取り組んでいる生徒の「目安箱」に寄せられる意見を向け、学校の指導が実態とかけ離れたものにならないよう配慮していく。 ④情報シートの活用をはじめとした教育相談の組織的な体制を、さらに精査して生徒の支援を効果的にしていく。 ⑤教員が校外に出向き、生徒の様子を観察することは交通安全だけでなく生活指導面で様々な効果が上がると考えるが、業務負担という点とのバランスを考え、効果的な指導法を構築していく。

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価(中間評価)		学校関係者評価 (3月14日実施)	総合評価(3月24日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	生徒一人ひとりにキャリアイメージを明確化させるとともに、生徒の自己実現達成を支援する。	○生徒一人ひとりの多様な進路ニーズに対応した支援体制、および関係行事等のさらなる充実を図り、進路に対する意識の向上を促す。	①進学希望者の支援の早期化・計画化を図る。看護医療など特定分野希望者へのきめ細かな支援を行うと共に、多様な受験方法への対応の強化を図る。 ②生徒・保護者対象の説明会等のイベントについて、対面・オンラインを使い分けた柔軟な実施方法により、生徒個々のチャットアップ、および進路へのイメージの明確化を図る。	①②の各支援内容ではコロナ禍において、生徒の多様なニーズに対応する支援内容が企画されているか。説明会などの内容について、立案・実施が適切になされているか。アンケートなどによる反応を探ると共に、特にオンライン説明会の場合は、アクセス数が全体の半分以上となるように情宣、働きかけに努める。	①②共に、3年は例年通り年度当初早々からの支援を実施、1・2年も1学期中に保護者対象の進路行事を実施して意識向上に努めた。希望者増加傾向にある総合型選抜や公募制推薦も早めの支援を行いきめ細やかな対応を意図した。説明会・ガイダンスの実施に際しては、情勢を鑑みた対面方式に加え、オンデマンド方式の動画配信も行い、ニーズに応えるよう努めた。	①②の各支援内容については、オンラインへのアクセス数等について留意していくと共に、今後生徒・保護者対象のアンケートを実施して生徒・保護者のニーズの状況把握に努める。	①生徒のニーズを踏まえた対応を展開していることを高く評価する。特に「イメージの明確化」という視点はとても重要であると思います。また、1年、2年のうちから多くの進路行事を行うことは、大変よい試みだと思います。 ②コロナ禍で急速に浸透したオンラインを使用した説明会やイベントなどを積極的に活用していることは評価できる。リアルと違って後から各個人が自分の都合の良い時に見返せるメリットを生かしてどんどん活用して欲しいと思います。	・コロナ禍への対応はすっかり定着した観が、対応はほぼ実施出来たと思われる。 ・今後の状況を注視しイベント等の支援内容を良く精査する必要がある。コロナ禍以前の活用はもとより新たな試みを積極的に展開していく必要がある。 ・コロナ禍に関わらず、学校を取り巻く情勢は変化しており、生徒・保護者の状況、そのニーズを的確に把握する必要がある。	・新校のスタートに伴い、生徒への支援の内実がより効果的になるように、グループからの指示・働きかけを活性化し、全体的により統一・徹底した内容となるように努める。 ・生徒・保護者からの反応(イベント等でのアンケート回答等)を良く検討し、より実質・効果的な支援となるように努める。
4	地域等との協働	生徒が地域の中での自分の役割に気づき、ともに支えあって生きていく喜びを体得し、豊かな人間性を獲得するよう支援する。	○生徒に地域貢献活動等への積極的な参加を促し、自分の役割への気づきを促進し、自己肯定感を高める。 ○より良い社会の実現に向け生徒一人ひとりが主体的に生きる上で必要な能力と態度を養う。	①近隣の幼稚園や養護学校との協働、ハワード・サポーター活動、募金や手話活動等の支援を通して、生徒の自発的な態度を育成する。 ②教育課程研究開発校「シチズンシップ教育に係る研究」指定校として、より良い社会の実現に向け生徒一人ひとりが主体的に生きる上で必要な能力と態度を養うための指導計画や教材等の研究開発に取り組む。	①地域貢献活動やボランティア活動等10回以上実施し、生徒の意識の向上を図り、自発的な態度を育成できたか。 ②教育課程研究開発校「シチズンシップ教育に係る研究」指定校として、1年間を見通した計画書と3年間を見通した計画書を策定することができたか。	①近隣の幼稚園やハワード・サポーター活動、手話活動の支援は、コロナ禍の制限の中だが実施できている。 ②「シチズンシップ教育に係る研究」指定校の指導計画や教材等の研究開発に取り組めた。教員研修会を実施できた。	①引き続き、コロナ禍での安心安全な在り方を模索しながら、生徒の活動を支援する。 ②引き続き指定校事業の推進を図るとともに、2年目の計画立案に取掛る。	①地域の中の学校として地域に出ているいろいろな試みすることは良いと思います。コロナ禍ではあるが、近隣幼稚園等とのコラボは今後も継続し、若い力を地域の助けとして出してほしい。 ②研究の方向性あるいは主な論点について記述があるとよいと思います。	①近隣の幼稚園やハワード・サポーター活動、手話活動の支援は、コロナ禍の制限の中で実施できた。 ②「シチズンシップ教育に係る研究」指定校の指導計画や教材等の研究開発に取り組めた。教員研修会を実施できた。	①コロナ禍でも安心安全に活動できる在り方を工夫しながら地域との連携を強化し、生徒の活動を支援する。 ②「シチズンシップ教育」の目的である「より良い社会の実現に向けて、一人ひとりが主体的に生きていく上で必要な能力と態度を養う」ため、各教科で学んだことが、どのように自分や社会に還元されているかわかるような、授業改善をしていく。
5	学校管理 学校運営	生徒、保護者、地域から信頼される学校づくりを推進する。	○県民の教育を担うという責任を自覚し、職務を遂行するとともに、事故不祥事防止に努める。 ○学校現場に即した実効性のある防災教育・防災訓練を実施する。	①各種説明会、ホームページやリフレット等、高校体験プログラムを通し県民や入学希望者に本校の魅力特色を広報する。 ②入学者選抜では根拠通知等に沿い、事故防止意識を高く保ち、適切な手順での業務遂行を徹底する。 ③校務用及び学習者用回線を適切に管理し、事故不祥事防止に努める。 ④年2回の防災訓練、年1回の防災講話を前例にとられず、生徒が主体的に動き考える場にする。	①説明会を県民320人以上に、本校ホームページ更新を10回以上、高校体験プログラム5本以上を実施し、本校の魅力特色を広く県民や入学希望者に広報できたか。 ②入学者選抜業務での事故を0に抑えることができたか。 ③校務用回線端末を50台以上、学習者用アクセスポイント30機以上、授業用ICT化用生徒識別950アカウント以上、生徒持込端末不正接続監視用識別950台以上の事故を防止する取組みができたか。 ④前年度の反省を活かし、より質の高い訓練、講話が実施できたか。	①各種説明会、ホームページやリフレット等を通し県民や入学希望者に本校の魅力特色を広報できている。 ②入学者選抜では根拠通知等に沿い、事故防止意識を高く保ち、手順を再確認している。 ③校務用及び学習者用回線を適切に管理し、事故不祥事防止に努めている。 ④第1回防災訓練は天候不順が続く実施できなかったが、消防署とタイアップした教員対象の研修は充実した内容であった。	①コロナ禍の中だが、年度前半に考案した工夫等を盛り込み、後半の広報活動にも力を入れる。 ②入学者選抜業務の再確認をマニュアルへと早急にまとめ、担当者会など職員への共有を図る。 ③引き続き適切な管理に努め、同時に業務の簡便化を目指す。 ④予告なしの訓練実施、生徒に今以上に役割を持たせるなどの工夫をしたい。	①目標設定のところに具体的な方向性を示すような記述があると取組との関連が明確になると思います。 ホームページに文化祭の様子動画を載せて見るのもよいアピールになると思います。 ②入学者選抜での事故は中学生の一生を左右するものです。マニュアル通りに進め事故防止に努めてください。 ③学校から外へつながるパソコンや外から学校へアクセスする状況が増えてくることから、サイバーリスク保証の保険も検討してもよいかもしれません。 ④生徒・保護者・地域から信頼される学校づくりは大いに推進すべき目標です。	①各種説明会、ホームページやリフレット等を通し県民や入学希望者に本校の魅力特色を広報できた。夏季休業中の学校説明会後の校内散策など今年度新たな取組も取入れた。志願者数が421人(1.32倍)変更後も400人(1.26倍)となり、入学希望者に魅力が伝えられた。 ②入学者選抜では根拠通知等に沿い、事故防止意識を高く保ち事故防止に繋がった。 ③校務用及び学習者用回線を適切に管理し、事故不祥事防止に努めた。 ④初めて災害救助犬によるデモンストラクションを行った。生徒達が非常に興味を持って臨んだ。	①コロナ禍の中だが、年度前半に考案した工夫等を盛り込み、後半の広報活動にも力を入れる。 ②今年度の入学者選抜業務の振り返りを次年度のマニュアルへと早急にまとめ、担当者会など次年度の引継を丁寧に進める。 ③パソコンが教育局を通じ外界と繋がっていることから、教育局のガイドラインに沿いながら万全のリスク対策を引続き継続する。 ④感染拡大防止の縛りがだいぶ緩和されてきたので、ここ3年間とは違う防災訓練を企画したい。地域との連携も行えるとうい。

